

令和6年度 津久井支援学校 学校関係者評価と有識者評価 議事録

日時	令和7年3月4日（火）9時30分～11時30分
場所	神奈川県立津久井支援学校
出席	有識者（学校運営協議会委員）2名 事務局6名
問合せ先	副校長 藤原 英明 電話 042-684-4872（直通）

事務連絡

- ・資料確認

1 校長あいさつ

学校関係者と学識経験者による評価会議は今年度から始まった。創立20周年が終わり、新しい学校になっていくためステップとして評価を生かしたい。忌憚のない意見を頂戴し、来年度につなげたい。

2 説明・協議

（1）校運営協議会活動状況報告書（令和6年度）第8号様式の説明 資料参照

①開催の概要

- ・第1回目：学校目標や各学部、グループの年間運営計画、各部会の設置について
- ・第2回目：各学部、グループの具体的な取組や部会の取組状況、職員研修についての報告
- ・第3回目：中間評価アンケート、各学部、グループの取組、部会の取組のまとめの報告

②部会の取組結果

・学校評価部会

部会の意見を学校運営に生かしていくことができた。具体的な成果は、ICT機器を教育支援ツールとして有効活用した。地域の学校や地域の方々との協働学習を実施した。（課題は「今後に向けた取組」で確認する。）

・防災部会

学校と地域による防災研修の実施において、防災上で学校が置かれている状況をあらためて確認した。防災用の衛星電話について、学校での配備の希望の意見があった。

- ・切れ目ない支援部会

地域を巻き込んだカフェサロンを新たな取組として検討していることを報告した。

③有識者による評価の記入を依頼

【質疑】

(有識者) 今回の会議の評価のポイントの確認を行いたい。

(事務局) 以下の2点での評価をお願いしたい。①として、運営協議会での意見が学校運営に反映されたか。②として今後の改善に向けての意見はあったか。

(有識者) 今回の会議は今年度からの取組ということだが良いか。実施要領などはあるか。

(事務局) 県立学校全体で行っており、高等学校も同様である。

(事務局) 県からは、具体的に会議の内容の指示はない。今回の会議の流れは学校で計画した。

(有識者) 第三者の評価は、協議会と別に第三者が入る学校もあると思うが、運営協議会の中での人選もある。来年度以降、第三者の位置づけなども考えると良い。

(2) 令和6年度学校評価報告書（実施結果）第2号様式の説明 資料参照

①教育課程学習指導について（「ICT機器の活用」）説明

- ・具体的な方策は、校内研究を通して、ICT機器やネットワークを活用し、個に応じた教育の充実を図る。
- ・評価の観点は、ICT機器やソフトの活用方法を理解し、授業実践に生かすことができたか。
- ・達成状況は、校内研究や職員研修や教科会を通じて、教職員のスキルアップ児童・生徒のICT基本操作の確認、ICTを活用した授業改善に取り組み、個々の実態に合わせた授業構成や支援につなげた。
- ・課題は、職員のスキル差を解消すること。また、児童・生徒どうし、地域の人との関わり等ICT機器を活用した協働的な学びの充実を図ること。
- ・学校関係者評価は、保護者アンケートでは「ICTを活用したわかりやすい授業が行われているか」について74.3%と昨年より肯定的な受け止めが3.6%アップしていることから概ね達成できたものと考える。

【質疑】

(有識者) ICT基本操作チェック表は、一人ひとり用意されており、生徒や保護者は一緒に確認しているか。

(事務局) 一人ひとりに用意している。教員が児童・生徒支援のために操作スキルを確認し、学習段階に合わせた授業内容や指導に役立てている。

生徒本人と一緒にチェック表を見てはいないが、できることの確認等は行っていると思う。

(有識者) 学校関係者評価の押さえは何か。

(事務局) 学校内（総括教諭、企画会議など）で内容を確認した校内での評価である。

(有識者) 「3月4日」となっているが、この欄の記載は保護者を含む学校関係者の評価で良いのか。総合評価の内容については、今回の資料を他の運営協議会の委員と共有した意見を踏まえて、本日の会議を行い、学校運営協議会の最終評価となることが望ましいと考えた。

(事務局) 今日の会議を含めて報告をまとめたものを委員にお伝えすることは考えている。それを受けた委員からの必要な意見を受けた場合、それに対しての評価の共有は難しいので、次年度以降の学校運営に反映させるようにしたい。

(事務局) 総合評価は今までの会議を踏まえた有識者の評価の内容としたい。日程について来年度は改善をし、中間評価と最後のまとめができるようと考えている。

②児童・生徒支援について（「専門職等との連携について」）説明

- ・具体的な方策は、専門職等と連携し、児童・生徒のアセスメントを目標設定や手立ての検討に生かす。
- ・評価の観点は、個別教育計画作成時に専門職などの全ての職員が関わり、多角的に検討し、手立ての充実を図ることができたか。
- ・達成状況は、担任のニーズに応じて、専門職や栄養教諭、養護教諭等が、個別教育計画の相談に応じたり、話し合いに参加したりしながら、児童・生徒の支援の手立てにつなげた。
- ・課題は、担任と専門職双方の会議日程を調整できていないため、必要に応じて実施している状況である。個別教育計画検討日等の日程を積極的に活用するとともに、これらを主導していく教員の配置が必要と考える。
- ・学校関係者評価は、保護者アンケートから「教員以外の専門職、栄養教諭、養護教諭が連携し、組織的な支援ができているか」について、94.3%と昨年より肯定的な受け止めが4.1%アップしていることからも、概ね達成できたと考えている。

【質疑】

(有識者) 具体的には個別教育計画の作成は何回か。具体的な専門職とは誰のことか。

(事務局) 作成は評価を含めて前期後期2回行われる。専門職は心理士、理学療法士。他に看護師や、栄養教諭、養護教諭も関わっている。

(有識者) 校内にいない専門職へ働きかけて相談し、個別教育計画の作成を行ったことはあるか。

(事務局) 他校の専門職などに相談を依頼し、授業の様子の参観や、担任との具体的な相談を行う機会を作っている。今年は他校の作業療法士を呼んだ機会があった。相談結果が個別教育計画に生かされることになった。

(有識者) 保護者や本人が個別教育計画の作成にどのように関わっているか。

(事務局) 個別面談で保護者と相談して作成している。

(有識者) 4年間の計画の目標となっているが、早く達成できそうなので、達成後に次の方策を立てられると良い。

(事務局) 個別教育計画を作成する上で、教職員の児童・生徒の障害部分の見取りや具体的な手立てなどに専門的な見地から対応するスキルアップの必要性を感じる。若手の職員には評価を作成する文章力などの基本的な知識をさらに求めていきたい。校内の課題と感じている。研修を積み重ねていきたい。

(有識者) AIを使用した個別教育の作成なども出ている。書く力の必要は少なくなるかもしれない。それよりも子どもの参加する教育計画の作成を今後検討してほしい。

(有識者) 支援が必要だったケースについて、具体的にどんな様子だったか。

(事務局) 外部を呼んだケースは1回あった。

(事務局) 経済状況などで家庭支援の必要なケースがいくつかある。児童相談所などを含めた拡大ケース会を開き、支援方法の共有を行い、次に対応するための役割分担を確認した。現在も対応が続いている。

(有識者) 経済面では市社協なども相談できると思う。当施設でも県社協の支援事業で生活困窮者のサポート事業がある。いろいろな所とのつながりが大切になってくると思う。

(事務局) 本校も情報をいただきながら進めていきたい。

③進路支援について（「将来を見据えた系統性のある学習について」）説明

- ・具体的な方策は、将来を見据えた系統性のある学習に取り組む。
- ・評価の観点は、進級後の学習の充実や卒業後の仕事と生活を視野に入れた学習に取り組めたか。
- ・達成状況は、余暇の充実を図るための学習やグループホーム見学会を実施した。「働く体験をしよう！」を福祉施設等と連携して行った。夏季休業中等の施設見学会とは異なり、企業や施設で行っている作業を体験し、作業内容の理解と自分自身の作業適性の確認、製品の流通を含め、学びを深められた。
- ・課題は、関係機関との調整や、生徒の実態と最適な実施時期等をふまえ、学習効果を上げられるようにしていく。
- ・学校関係者評価は、高等部生徒の感想からは「毎日行っている作業内容を知ることができた。」「同じたたむ作業でも（物によって）できる物とできない物があった。」「また毎日継続して作業をすることはとても大変なことがわかった。」とあり、関係機関と初めて実施した学習に手ごたえを感じている。

【質疑】

(有識者) 高等部の生徒対象の内容か。すべての生徒がグループホームの見学など、同じような内容に取り組んだという意味か。または、生徒によって見学先や体験が異なるのか。

(事務局) 学年の進路の校外学習の位置付けで行った。学部全員が対象ではなく、3年生全員で行った。

(有識者) 課題の中に「生徒の実態に合わせた実施」とあった。実態に合わせると全員がグループホームの対象ではないと思うが、他の生徒たちは他の内容があるのか。

(事務局) 学年ごとで動くことが多いが、実態に合わせることが大切であると理解した。

(有識者) 卒業後すぐグループホームに行くケースは少ないとと思うが、将来を見据えた学習であったのか。障害基礎年金をもらう20歳までは収入の確保が難しい面があり、就労継続B型に勤めても工賃が多くはない。2年間がネックになっている。グループホームを卒業後すぐに利用するニーズがあるのは家庭の事情か。

(事務局) 近い将来にニーズのある生徒がいるため、グループホーム見学のための校外学習は有効だったと考える。

(有識者) グループホームは株式会社の経営の所が多い。社会福祉法人の経営は空きが少ないとと思う。

(事務局) 今回の見学先は社会福祉法人で、サービスの一つとして宿泊型自立訓練のある所だった。

(有識者) 見学なので、空きがあるかは別として考えて良いと思う。

④地域との協働について（「学校全体でセンター的機能の推進に取り組む」）

説明

- ・具体的な方策は、教員一人ひとりがセンター的機能を担っていることを意識し、学校間交流等の機会をとらえ、障がい理解の促進に努める。
- ・評価の観点は、地域と学校が関わるあらゆる場面において、相互理解を深めることができたか。
- ・達成状況は、相談支援係だけでなく担任も出前授業を実施し、交流の目的を相手校と共通理解するところから始め、目的に合った活動内容で障がい理解の促進や同学年の仲間であるという相互理解につなげた。
- ・課題は（12月に近隣の高校との交流学習に実施したが）高等学校とは全般的に交流を再構築していきたいと考えている。
- ・学校関係者評価は、交流先の学校でも、交流の目的が整理され、通常級の職員に与える影響も大きいという感想が近隣の小学校長からあった。

【質疑】

(有識者) 近隣高等学校との関係の再構築についての具体的な改善策は何か。

(事務局) これまで他にも近隣にある高校2校とも連携を図ってきた。高校は担当者の入れ替わり、入学選抜試験や部活、授業確保の点で平日の予定の調整が難しくなっている。これまで農作物を本校が受け取るなどの交流もあった。高校との連携の再構築に向けて工夫したい。

(有識者) 実際の交流での変化や成果はあったのか。

(事務局) 今年の専攻科の生徒との交流では、集団活動が難しい本校の生徒が交流の場では自己紹介を自分から行うことができた。特別支援学校の生徒だけでは得られないような活動ができる学習の場となった。

(有識者) 各学校との取組と今後を教えてほしい。

(事務局) 各校への具体的な改善策はまだ検討していない。取組は次の通り。

- ・高校に出向き、ゲームに参加する交流を行った。
- ・本校の行事「つながれつながりのフェスティバル」で人形劇を発表してもらった。昨年は本校が出向き、文化祭に参加した。
- ・吹奏楽部が例年、本校で演奏をしていた。平日の参加や顧問の入れ替わりで調整が難しく今年度は実施できなかった。

(有識者) 分教室があれば話が進めやすい。イベント的では単発の交流になってしまふ。平日の授業に入ることも良いと思う。1月に見学した他県の例を紹介するが、県立高校と特別支援学校が同じ敷地内にあり、1人の校長が両校を受け持っている。お互いの授業に参加する機会を作り通常の授業で共同学習を行っている。例えば、高校の専攻科の生徒を本校に呼んで一緒に学び、将来の資格取得につなげるとか、日常の学びの中で交流できると良いと考える。分教室と高校の間ができるとよいと思う。高校には専攻科という特色を持っている学校があるので、本校との交流を深めやすい。他県ではP Cの授業を支援学校と高校の2名1組で隣り合って行うような活動があった。津久井の生徒の得意なことでつながることができると良いと思う。

⑤学校管理学校運営について（「ホームページ掲載内容について、ニーズを踏まえ保護者や地域に情報を伝える」）説明

- ・具体的な方策は、ホームページ掲載内容のニーズをふまえ、保護者や地域の方に必要な情報が伝わるようにする。
- ・評価の観点は、アンケート等による意見集約を実施し、見る側に立ったホームページの改善に取り組むことができたか。
- ・達成状況は、学部や分掌の中にホームページに記事をアップする担当者を設置し、掲載の即応性を高め、タイムリーな情報を提供した。また、職員アンケートを実施し、掲載内容の改善を図った。新たな取組として職員研修のコーナーを設け、積極的な発信に努めた。
- ・課題は、職員に実施したアンケート調査を、保護者や学校運営協議会委員等にも協力依頼して意見を反映させ、改善に努めることだと思う。
- ・学校関係者評価は、保護者アンケートでは「ホームページに掲載されている内容から児童・生徒の様子をはじめ、研修の実施等、職員の取組が伝わる内容となっているか。」について、91.4%が肯定的に受け止めて、前年度より13.4%アップしたことから、達成できたと考える。

【質疑】

(有識者) 会議を2時間以上は実施しない等、当施設でも会議の効率化を進めている。職員の意識変化はあるか。

(事務局) 会議の改善についての意見収集や働きかけを、職員の全体的には行っていない。企画会議や職員会議などでは、時間を守るように伝えている。しかし、資料の完成度を上げる等の具体的な方策が足りない。具体的な方策について次年度は着手したいと考える。

(有識者) 勤務時間を減らす取り組みは大切だが、職員の様子はどうか。残業が当たり前の風土を全体に変える必要がある。

(事務局) 県が「ノー残業デー」を提唱しており、以前より職員の意識を感じるが、難しい職員が特定数いる。管理職も同じような姿勢を見せて進める必要を感じている。

(有識者) 職員の異動のサイクルはどのくらいか。

(事務局) 初任は6年、通常は8年で積極的異動となり、9年が限度となっている。

(有識者) この学校を長く希望する職員はいるか。

(事務局) 学校ではなく、地区での希望になっている。本校の立地的に初任の教員や若い教員が多く、異動のサイクルが短い。

(有識者) 当施設への異動希望は通勤が不便なため少ないが、入った後の異動希望は少ない。

(有識者) 資料の作り方、話の方法の職員への指導についての現状や計画はあるか。

(事務局) プランはあるが、提案の形には未だなっていない。企画会議の中で総括教諭に伝えている。職員全体への働きかけはトップダウンにならないようにしたい。職員から考えさせる機会を作っていくことが大切だと思っている。

(有識者) 総括教諭等に資料の作り方や話し方等の問題提起をし、実際にやってもらうことが大切だと考える。自分も1分以内での提案や、紙1枚での提案などを職員に求めたことがあった。実際にやってみると意識が変わるかもしれない。津久井に合うやり方で実際に取り組んでいくことに期待する。

(事務局) 2号様式についての全体での質問はあるか。

(事務局) 下の空欄の枠には、運営協議会の日程など、上の評価に出てこないものがあれば記載してほしい。

3 評価のまとめ（10：40～11：20）

- ・事務局は一端退席し、評価の記入をPC入力で依頼した。

4 最終評価報告

(1) 第8号様式について

(有識者)

- ・それぞれの立場でまとめを行った。すり合わせを行う時間がなかった。成果と課題については記入した。改善の方策はそれを受けて学校で考えてほしい。
- ・グランドデザインに基づいた学校全体での取組ができた。特にICTに関する取組に力を入れた。実際の授業実践を受けてさらに改善に取り組んでほしい。働き方改革の進め方や内容の実際のアイディアを教職員から募り、職員が自分事として進めていけたらよいと思う。防災対策では、学校の課題として衛星電話の要望があった。学校運営協議会として必要性の確認を行った。難しさはあるかもしれないが進めてほしい。地域連携については情報提供を受けながら引きつづき進めていくと良い。

(有識者)

- ・学校運営協議会では目標、計画に沿った経過などの丁寧な説明があり、参加委員からの意見を受けて、学校運営を改変したいという姿勢が評価できる。
- ・各部会からの報告では職員一人ひとりから教育と学習指導の向上を図りたいという姿勢が感じられ、津久井支援学校のこれからを考える職員研修を実施するなど、学校全体で理想の学校づくりに向けた取組が行われていることが評価できる。

(2) 第2号様式について

(有識者)

- ・保護者を含めたICT活用ができると良い。
- ・個別教育計画では本人参加のあり方をチームで考えると良い。
- ・進路では、児童・生徒に応じた見学や小中学部の段階での進路学習を行ってほしい。
- ・地域との連携はたくさんの取組がされており、評価できる。
- ・障がい理解の促進の有無については、本校からの説明はあったが、相手校の評価を受けて課題を探ると良い。
- ・学校運営協議会の委員の話の中で、近隣小学校から発達障害の指導へのニーズが高かった。地域の学校へ定期的な巡回をする仕組みを検討する等の必要を感じた。
- ・業務効率化については先生方と引き続き進めてもらえると良い。
- ・その他では、丁寧で具体的な分かりやすい説明が良かったので引き続きお願ひしたい。委員への報告と意見収集が中間評価までとなっている。最終評価を含めた形で委員への報告をしてほしい。

- ・1年間の目標に対して、具体的な方策と評価の観点がうまくかみ合っていないところがいくつかあった。来年はつながるような形で達成できると良い。

(有識者)

- ・ICT機器の活用に積極的に取り組んでいる。教員のスキル向上のための研修児童・生徒の基本操作状況の確認が授業実践に生かされている。今後も継続した取組が必要と考える。
- ・児童生徒に係る専門職などを含めた半年に一度の個別教育計画の策定が多角的に行われているが、役割分担の整理が必要とあった。指導する教員や策定に係る手順や効率的かつ効果的に進めてほしい。家庭状況等により支援が必要な児童・生徒については引き続き関係機関と連携し、迅速な対応をお願いする。
- ・児童・生徒一人ひとりが将来に望む生活の実現に向けて、より必要な情報や体験の場を設けるなど、福祉事業者や企業、地域と共同で進路指導にあたってほしい。
- ・地域での体験学習や地域の高校と交流を深めるなど、共生社会の実現に向けた取組を推進している。さらなる交流の場を設けるとともに、インクルーシブ教育を意識した取組を積極的に行ってほしい。
- ・職員の働きやすい職場作りに取り組んでいる。会議の進め方や残業を減らす取組など、工夫しながら効率性を高める必要がある。津久井支援学校のこれからを考える職員研修の取組については、学校の理念に係る重要事項であり、継続して議論を深めてほしい。

(事務局) 短時間の中で丁寧な評価をまとめていただき感謝する。受け取った評価をまとめて来年度につなげたいと思う。

5 お礼のことば（校長）

4月着任から半年が過ぎ、本校の様子が分かる中で具体的な方策を多く考えようになった。コロナで閉じた部分を広げにくく所に課題を感じる。職員もコロナ以前の学校を知らないものが多くなってしまった。それまでの地域との協働を体験していない職員が多い。有難い良い評価を受けたことを含め、地域の中で子どもたちが成長していくこと、インクルーシブ、障がい理解などについて、地域や小学校、中学校、高等学校と連携し、来年度は広げていけると良いと思っている。本日はお忙しい所、お越しいただき感謝している。

6 その他

- ・（事務局）令和7年度の予定確認。あらためてお知らせをする。

【配付資料】

- ・令和6年度 学校評価報告書
- ・学校運営協議会活動状況報告書
- ・グランドデザイン
- ・各回の評価票のまとめ
- ・学校評価アンケート